

TOPICS

今、私に必要な「避難」とは？

～四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構セミナー～

7月3日、OLIVE SQUARE多目的ホールで開催。会場とオンライン参加によるハイブリッド形式により行われ、会場参加33名、オンライン参加173名、講演者や学生、機構スタッフ24名の計230名が参加しました。はじめに跡見学園女子大学教授の鍵屋一氏による「要配慮者の避難支援について」の基調講演がありました。高齢社会に突入し日本社会が脆弱化する中、要配慮者の避難支援に、より踏み込んでいく必要があると指摘され、

高齢者等の要配慮者の避難にあたり、家族、近所の人、福祉関係者という3者が連携を取ることの重要性について説明がありました。つづいて香川大学客員教授の須見徹太郎氏、倉敷市真備町の川辺みらいミーティング実行委員会の横原聡美氏、香川県危機管理課の織田浩幹氏、香川大学機能別消防団の学生から、「避難」について、それぞれの立場からの話題が提供されました。参加者からは「難病患者の避難はどのように考えるべきか」、



セミナー会場
入場前の検温・手指消毒・会場の3密回避等、感染症対策を行い開催

「災害情報学会の提言は地域住民の疑問への解決策にはなっていないのではないか」等、多くの質問が寄せられました。

うまげなかがわ感じてみまい！シンポジウム

～うまげなかがわ感じてみまい！うどん県住みます学生プロジェクト オンライン短期プログラム～

7月18日に、香川大学と東京圏の大学生対流促進事業の一環として、「うまげなかがわ感じてみまい！シンポジウム」を開催。オンラインによる1day短期プログラムとして、本事業実施校の香川大学、芝浦工業大学、津田塾大学、東京農工大学の全学生を対象に、地域おこしに取り組む方々からの講演、本事業の紹介、本事業や香川の魅力についてのパネルディスカッションの3部構成で実施しました。現在進行形で地域をけん引する元男木島地域

おこし協力隊の石部香織氏、瀬戸内サニー(株)社長兼YouTuberの大崎龍史氏による若い世代の講演や、これまでに本事業に参加した学生が語る実体験を交えた事業紹介・パネルディスカッションは大変興味深く、約100名の学生が聴講しました。事後アンケートではプログラムの詳細がもっと知りたいとの声も聞かれ、今回最も多く参加した1年生の学生たちにとって興味を広げる機会となった様子でした。今回のオンラインシンポジウムという初の取り



司会を務めた香川大学経済学部3年 田岡さん

組みによって、本事業への関心の高さを実感するとともに、本事業が持つ今後の可能性に期待が高まります。

from International Office



ちきゅう見聞録



オーストラリア パース

教育学部
前川奈帆美
2019年8月19日から5週間、
西オーストラリア大学での英語研修に参加



ホームステイ先でいたマレーシア人のレイチェル(右)と。日本が大好きで、毎日、日本に行ってみたくと話してくれました。レイチェルや他の外国人の友達と、もっと上手に話したいと強く思うようになり、英語を勉強しようという気持ちが高まりました。



モスマンドッグビーチです。パースはインド洋に面しており、西側なので夕日がとても綺麗です。ドッグビーチなので、屋間は多くの犬が元気に走り回っていました。リードをつけずに走っていた犬が多く、その自由さに驚きました。



ロンドンコートは、1930年代に建設された英国のチェダール様式建築の、歴史あるショッピングセンターです。アンティークの雑貨屋さんや、アクセサリショップ、古くからやっているカフェなど、ただ見ながら歩くだけでも楽しいです。

read more



KADAIGEST 2020 7



MAXスピードの一瞬を激写！とてつもなく爽快！



救助艇のすぐ横からスタートするので、迫力満点！



マネージャーは救助艇を運転し、練習を運営します。



現2年生の同学 SHOT！



パワフルガールも現4人在籍しています。男子と女子が同じ土曜で戦えるのもウインドサーフィンの魅力のひとつです！



試合では100艇くらいが一斉にスタートし、風上のパイを目指して我先に向かいます。



練習や試合のあとのエモタイム。



これは遊んでますが、マネさんに選手の動画を撮ってもらい勉強します。



イベントもたくさん！パワフルガール、ビアガーデン、キャンプ、夏合宿、忘年会 etc.



香川大学医学部 ウインドサーフィン部

私たちウインドサーフィン部は、毎週土・日曜日に津田の海で活動しています。

「ウインドサーフィン」。耳慣れない名前ですが、スポーツだと感じる人も多いのではないのでしょうか。私も大学に入学したときは初耳でした。新しいことを始めてみたいと思う気持ちがあって試乗会に参加。海に浮かぶボードの上に立ち、セイル(帆)を上げることから始めました。重いうえに不安定で初めは苦戦しますが、何度か練習するうちにセイルを立てられるようになり、後は風の力で進みます。

初めて艇が進んだ瞬間もそうですが、それ以降も自分で成長を感じる場面が多くあります。

自由に行きたい方向へ行けるようになった時、より強い風の中で乗れるようになった時などがそうです。競技はコースを回る早さを競うレース形式なので、周りの選手に勝つための成長というものもあります。

部の最大の目標は、九山という大会での団体優勝です。練習はそのために常に真剣です。普段とは打って変わっての様子に、入部した頃の頃、私は少し面食らいました(良い意味で)。こうしたオンオフがあってこそ個性的な面々が纏まって、切磋琢磨できるのだらうと思います。

興味を持った方、新しいことを始めてみたいという方は気兼ねなくご連絡ください。

活動場所・津田の松原
活動時間・毎週土、日曜日
部員数・30人
Twitter・@KmuWindsurfing
Instagram・kmu_windsurfing



サークル歴4年
医学部4年
平野 潤一郎

VOICE

香川大学アートプロジェクトチーム

2013年、地域でのアート活動を通して、社会貢献と美術教育・美術制作技術・理論を学ぶことを目的に発足。現在、教育学部(美術領域)・教育学研究科の学生8名が活動しています。



旧まんのう町立琴南東小学校体育館で行ったオスカー氏の作品制作サポート。材料には造船用の繊維素材とロープが使われた。



作品について解説するオスカー氏「人と人、人の心や夢をつなぐ。自然の力に捧げる空間の創作物。」



サポートした作品はバリ工芸博物館敷地内に展示された。

香川大学アートプロジェクトチームとして活動するなかで、高松市塩江町とまんのう町、綾川町、三豊市などで開催されているアートイベント「かがわ・山なみ芸術祭」では、人との出会いと新しい経験に恵まれ、多くのことを学ぶことができました。

「かがわ・山なみ芸術祭2019」は、過疎高齢化が問題となっている香川県の中山間地域の多くで、小中学校が廃校となり文化の拠点を失っているなか、美術家が自らアートイベントを住民と共同で企画運営し、芸術文化の持つ力で地域の可能性を引き出し新たな文化の創造につなげることで地域活性につなげることを目的として開催。「かがわ・山なみ芸術祭2019」HP参考

2015年、「かがわ・山なみ芸術祭」に出展している私人アーティスト、オスカー・ロペラス氏から、パリで展示する作品の制作協力依頼がありました。オスカー氏の指示を受けながら、塗料を塗る、素材を接合するなどの制作過程に携わらせてもらい、近い場所で作家が持つ芸術の思想や作品の目指すところを共有することができ、大変貴重な経験を得ることができました。

2019年、埼玉県在住の木彫作家高梨裕理氏の彫刻作品を旧琴南中学校の玄関ロビーに設置

するサポートでは、作品の角度の調整や安全性の確認を、日が暮れるまでこだわりの姿勢に作家が作品作りに掛ける熱意と想いを肌で感じました。

国営讃岐まんのう公園で開催されるワークショップ「アートフラッグ」と「あじさいパラソル」には、子どもから大人や高齢者まで幅広い層の方々が参加されます。アートを通して、来場者と触れ合える時間を持つことができたことは、教育学部の学生として大きな学びになりました。



綾山湖水神の道路壁画は、香川大学アートプロジェクトチームが「かがわ・山なみ芸術祭」と関わった最初のイベント。



まんのう町にある西内花月堂の壁に様々な乗り物を描写。今は走っていない琴電車両も描かれている。



香川大学アートプロジェクトチームメンバー



大島青松園は、かつてハンセン病患者として強制的に隔離させられた方たちが、病気が完治したあとも暮らす施設。売店の壁に入所者の方々の子どもの時代を思い描いた。制作中、売店や入所者の方から、たびたび温かい声をかけていただいた。

2016年には、「国立療養所大島青松園」の売店へ壁画制作に行きました。入所者の方々からの「自分たちの子どもの頃の絵があれば嬉しい」との声を受け止めて、この場所にふさわしく皆に愛されるものになることを目標に描きました。大変な制作活動でしたが、入所者の方々に支えられながら制作をやりきれた時の大きな達成感は忘れることができません。

香川大学アートプロジェクトチームの活動を通して、様々な発見と学びに出会いました。

過疎と呼ばれる地域では学びの場が失われているという現実を知り、大学での授業だけでは知ることができない教育の問題があることに気づくことができました。また、あらゆる場面において多様な考えや捉え方があるということを考えるきっかけにもなりました。アートプロジェクトチームで得た経験を、これからの制作活動や教育活動にいかし、様々な子どもたちの意見と寄り添い、共に考えることができる教員を目指していきます。

教育学部研究科教科教育専攻(美術分野)2年 河西紀亮



旧琴南中学校で開催された「山の小さな展覧会」のポスター制作や文字のデザインをチームで作成。私は出展された作品を加工し、ポスターの構成を行った。展覧会の顔ともいえるポスター制作に関わることは、緊張感があるとともに嬉しさもある。



讃岐まんのう公園で開催された「アートフラッグ」のワークショップ。



讃岐まんのう公園内にワークショップで制作したアジサイの傘が映いた。



制作したアートフラッグは讃岐まんのう公園の丘に設置された。